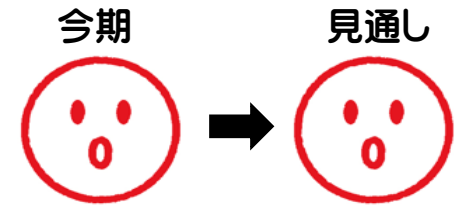


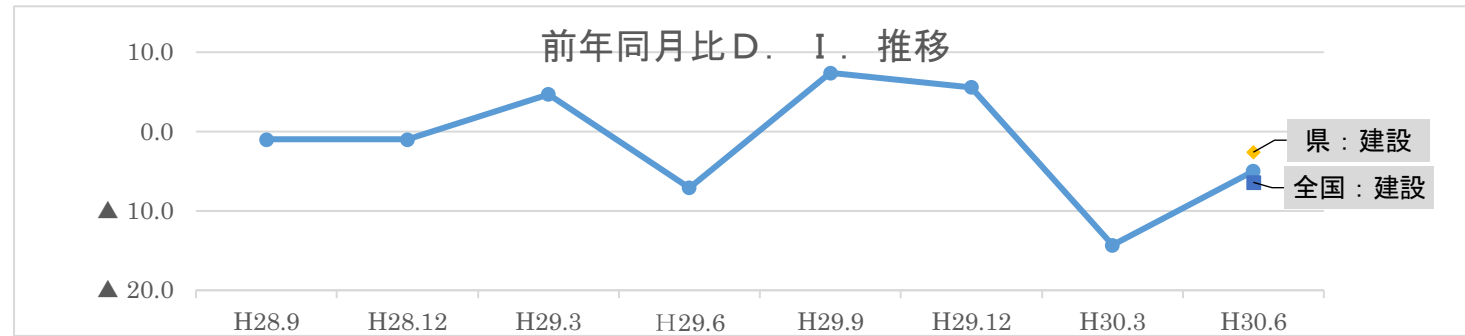
# 建設業

回答率:92.3%(60/65)

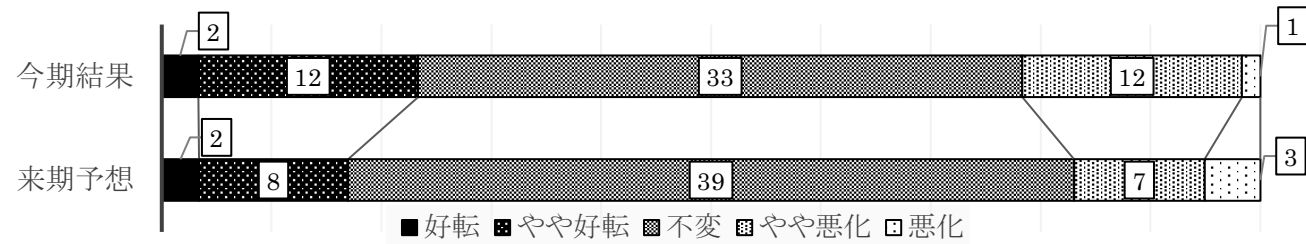


## ■丹波市の景況推移

受注は、前年・前々年と比較して順調に伸びている。見積もり時点から急激に原油・鉄などの原材料が高騰しない限り、利益は確保できている。



## ■丹波市の景気動向



## 【今期の景況】

電気工事業関連では、猛暑のためエアコンの付け替えや修理に関する受注が増え、売上高を伸ばしている事業所も多く、事業所によっては、工事が約3週間待ちという状態になっている。また、業界全体の経営上の問題点として、従業員の確保難の数値が依然として高い。

## 【来期の景況予想】

例年、夏ごろにかけて公共工事案件が減少するため、それに伴い受注数も減少する見込み。一方で、リフォーム関連及び空調関連の受注量が増えており、引き続き好調に推移していくものと見込まれる。

## ■全国の景気動向

東京五輪施設などで建設業界は2年先まで仕事量が確保されている。例年よりも一足早く到来した夏の暑さから、エアコンの設置等にかかる設備工事業が繁忙を極めている。しかし、仕事はあるが業者や職人等が足りず仕事ができないとの回答が多い。

## ■県下の景気動向

公共工事等の受注量は多く見られているが、住宅着工数の伸びが非常に弱く、民間工事の受注量は依然として弱い。住宅市場の地域消費の停滞感が長びいている。県下でも人手不足が深刻であり、特に現場での技術者不足が顕著である。

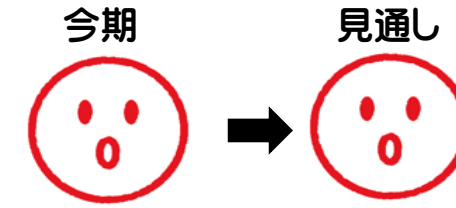
## ■地区ごとの回答(前年同期比)

	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計	構成比
良い (増加+やや増加)	3	5	2	2	2	2	16	26.7%
不変	0	12	4	4	2	3	25	41.7%
悪い (悪化+やや悪化)	1	4	2	6	2	4	19	31.7%
合計	4	21	8	12	6	9	60	100.0%

# 製造業

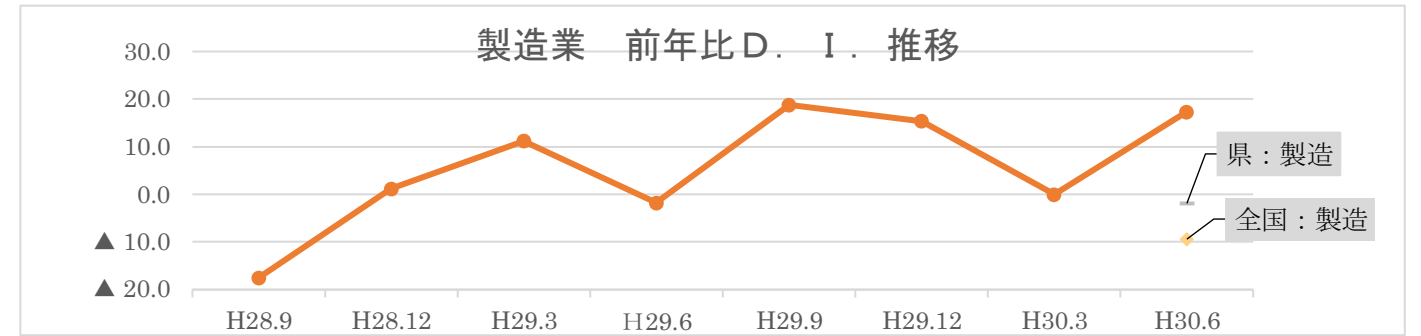
回答率:98.1%(52/53)

平成30年4月~6月期調査

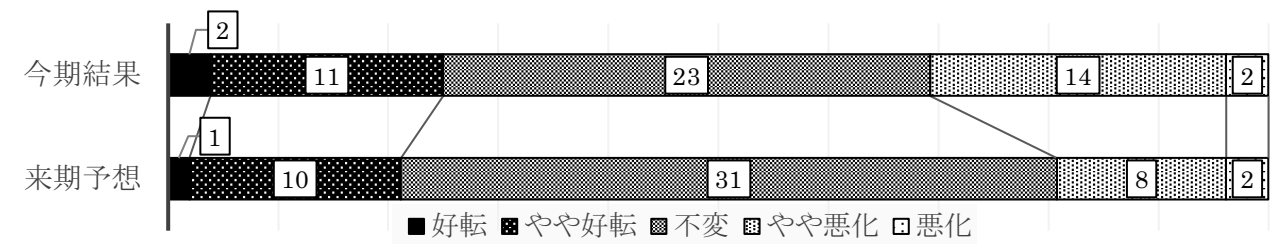


## ■丹波市の景況推移

東京オリンピックの影響で、金属関連の部品加工は好調。一方、高い技術を持った従業員の確保が難しいことに加え、原材料・仕入価格の上昇も問題となっている。



## ■丹波市の景気動向



## 【今期の景況】

原材料・仕入価格の上昇に歯止めがかからず、収益を圧迫する状況が続いている。しかし、その様な状況の中で、仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁できている企業は、収益の確保が出来ている。製造業においても、人材の確保難が続いているが、最近では人材の育成に注力している事業所も増えている。

## 【来期の景況予想】

安定した取引を続けていく上で、今なお続く人手不足を補うため人材育成の強化や職場環境改善に取り組み始めた事業所が少しずつではあるが増えてきている。また、ものづくり補助金等を活用して機械導入し生産性向上に努めている事業所では、今後投資効果が現れると期待している。

## ■全国の景気動向

機械・金属関連は引き続き受注は多い状況であり、特に電気自動車やロボット産業に関連した製造業では、全体的に増加傾向である。一方で、慢性化してきた人手不足、原油高、資源高を要因として繊維業や金属製品製造業を中心に、採算、資金繰りが悪化し、利益に結びついていない状況。

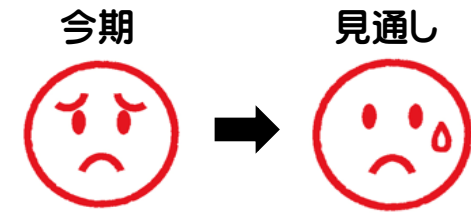
## ■県下の景気動向

機械・金属の受注量は例年並みである。鋼材仕入価格は同じくらいで採算はやや好転している。今のところ順調に推移しているがこの先の予測は難しいと感じている。自動車販売台数の伸びにあわせて自動車部品関連の製造活動は小幅に伸びている。

## ■地区ごとの回答(前年同期比)

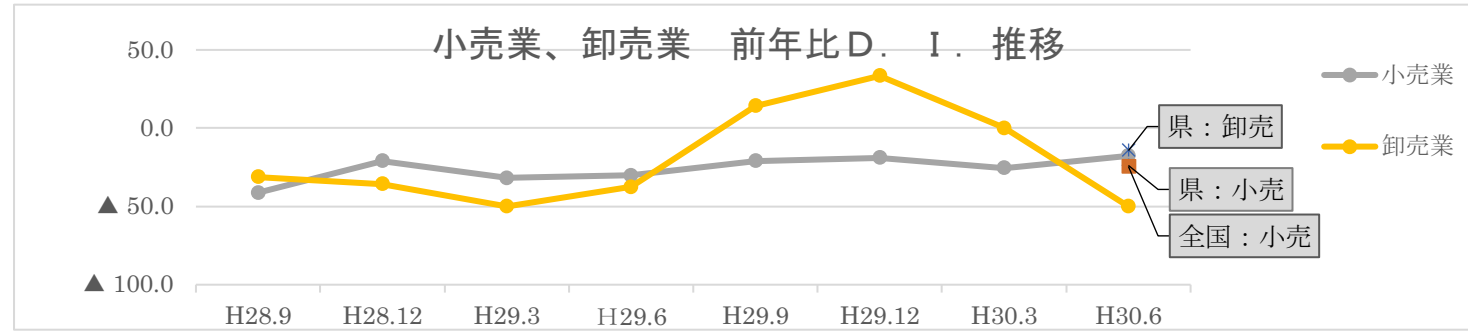
	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計	構成比
良い (増加+やや増加)	2	5	2	2	5	3	19	36.5%
不変	2	7	4	3	5	2	23	44.2%
悪い (悪化+やや悪化)	2	0	1	2	4	1	10	19.2%
合計	6	12	7	7	14	6	52	100.0%

# 小売、卸売業 回答率:92.1%(70/76)



## ■丹波市の景況推移

市外の大手同業者が丹波市にも参入しかけたことで、価格競争に巻き込まれ、収益の減少となっている。また、急激な気温の上昇により、買物の頻度も減少傾向となった。



## ■丹波市の景気動向



## 【今期の景況】

4月は入社・入学シーズン、5月は大型連休があり、耐久消費財の売上が伸びた事業所も多い。しかし、6月に入ると天候の影響もあり、食料品小売関連（鮮魚小売含む）では水揚げ量が少なく、魚の種類への減少に加え、卸値も高騰し、ダブルの影響で来店数、売上高ともに減少している。

## 【来期の景況予想】

例年と比べ、暑さが厳しいとの予報から、高齢者を中心に客足の減少が懸念されるが、8～9月は帰省客、熱中症対策により飲料水は増加が見込めると考えられる。一方で、高齢化による免許返納が、今後の自動車の販売、外出機会の減少による、燃料、食料・衣料品等の消費にも影響すると懸念される。

## ■全国の景気動向

梅雨入り後の雨量が少なく好天が続いたため、消費者の外出への意欲が旺盛なこともあり、売上が好転したとの報告や夏の暑さが到来したことから、エアコンの新規取付需要が発生し、耐久消費財の売上を押し上げている。

## ■県下の景気動向

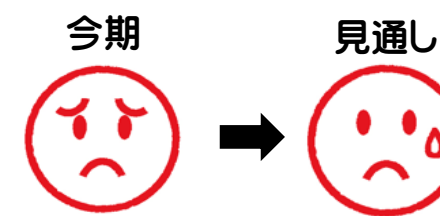
コンビニの事業所数の増加により、1事業所あたりの販売額は全ての地域で減少傾向である。百貨店の売上は8ヶ月連続でマイナスとなっているが、紫外線（UV）ケア商品が健闘した化粧品関連では、売上が増加傾向であった。

## ■地区ごとの回答(前年同期比)

	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計	構成比
良い (増加+やや増加)	4	7	0	1	1	0	13	18.6%
不変	5	12	2	3	4	3	29	41.4%
悪い (悪化+やや悪化)	5	8	1	7	5	2	28	40.0%
合計	14	27	3	11	10	5	70	100.0%

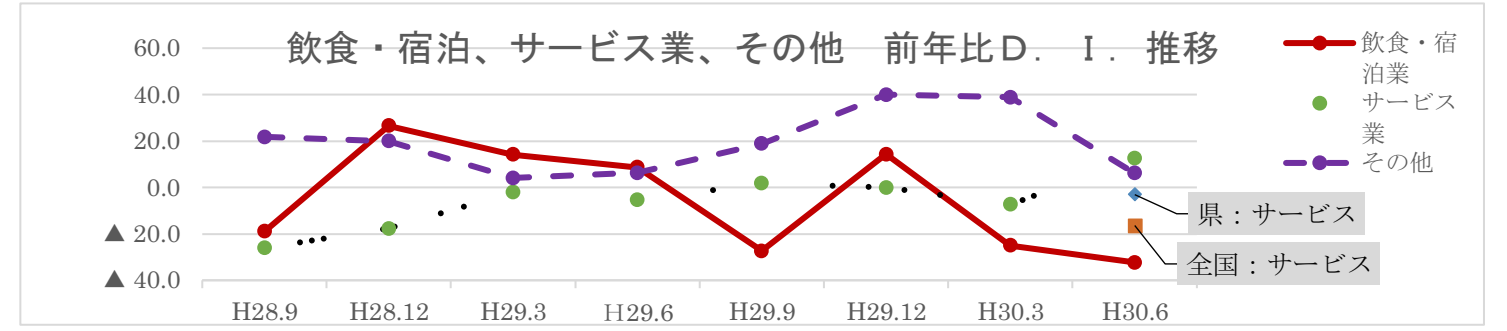
# 飲食・宿泊、サービス、その他業種 回答率:96.2%(102/106)

平成30年4月～6月期調査

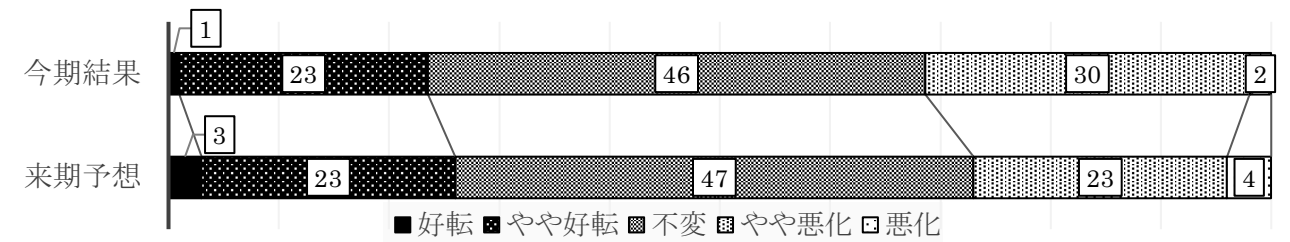


## ■丹波市の景況推移

食料品関係の仕入れ値の高い状態が続いており、収益がなかなか上がらない状態が続いている。人手不足を問題視している事業所数が多い。



## ■丹波市の景気動向



## 【今期の景況】

客数が年々減少しており、売上が減少している事業所が多い。最近の顧客は、求めるサービスの質も高くなっており、より特徴を出す必要がある。また、業種全体の傾向として、人手不足（パート・アルバイト含む）が著しく、営業に支障をきたしている事業所もあり、営業時間の短縮等に対応される店もある。

## 【来期の景況予想】

昨年からの材料代が大きく上昇しており、それに伴い利益が減少している。しかし、自社商品の強みを周知する営業を重ねた事業所では、取引先は増えてきているので、今年の秋以降は販売数も伸びていくと考えられる。今後は人材育成が重点課題と認識している事業所数が多い。

## ■全国の景気動向

6月は空梅雨の地域も多く、外出しやすい天候に恵まれたことから宿泊業を初めとし、サービス業の売上が回復してきている地域がある一方で、ドライクリーニングに使用する溶剤、運送にかかるガソリン代など原油高の影響が徐々に出てきており、コスト上昇を販売価格になかなか転嫁できていない。

## ■県下の景気動向

輸送関連では、燃料価格の上昇や人手不足などにより先行きが不透明であり、更に価格には反映できていない状況が続いている。

## ■地区ごとの回答(前年同期比)

	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計	構成比
良い (増加+やや増加)	8	12	3	2	4	2	31	30.4%
不変	12	10	3	5	6	2	38	37.3%
悪い (悪化+やや悪化)	4	8	3	4	4	10	33	32.4%
合計	24	30	9	11	14	14	102	100.0%